



# ら♪ら♪ら♪

♪♪子育て支援だより 2023年 No.4 ♪♪

鬼志別保育所子育て支援センター  
宗谷郡猿払村鬼志別北町131番地

担当 小泉奈央子 (こいずみ なおこ)

TEL 2-3666 FAX 2-2266

回  
覧

## ★8月の子育て支援センターの予定★

- 8月 2日(水) 10時～あそびの広場(センサリーバッグ作り):ミニ講座「お片付けのコツ」ボランティア松原さん
- 8日(火) 10時～おでかけ広場(知来別):お散歩&エプロンシアターを楽しもう!
- 9日(水) 10時～あそびの広場(センサリーバッグ作り):ミニ講座「図書室・なかよし号」教育委員会
- 17日(木) 15時～子育てサロン(担当:小泉・荒)
- 23日(水) 10時～あそびの広場(シャボン玉):ミニ講座「生活リズム」新家まり先生
- 24日(木) 16時30分～「インスタライブ」(担当:小泉・小高・荒井)
- 25日(金) 18時～子育て講座「ヨガでほぐそう!ココロとカラダ」講師:中島まなみ氏 ★託児あります★
- 29日(火) 15時～おはなし広場「絵本・エプロンシアターやおしゃべりも楽しみましょう」
- 30日(水) 10時～あそびの広場(シャボン玉):ミニ講座「絵本のお話」ボランティア井上さん
- 31日(木) 10時～おでかけ広場(芦野):ビッグヨーヨーを作って外で遊ぼう!(工作・外遊び)

### 「センサリーバッグ」とは。。

視覚・触覚・聴覚を刺激して脳の発達をうながすおもちゃを「センサリートイ」といい、ジッパーつきのバッグに洗濯のりやビーズなど様々なものを入れたものが「センサリーバッグ」です。暑い時期には冷蔵庫で冷やしてから遊ぶのもおすすめです♪



## 子育て講座の様子☆



7月の子育て講座は、「革小物作り」でした!革の質感や香りに触れながら、みなさん集中して作業を進め、それぞれ満足のいくオリジナルの素敵な作品が仕上がっていました!



# 広場の様子～おはなし広場～



ボランティアさんが絵本を読んでもくれます♪

## ♪子育て講演会のお知らせ♪

演題:『君の行動に愛はあるか?』

～アートで世界を変える長坂真護の挑戦～

日時:9月7日(木)18:00~19:30(開場は17:30)

場所:猿払村交流センター(託児もあります)

小学校高学年以上は親子の参加も可

先進国が輩出した多くのゴミをアートに変え、その資金で「電子機器の墓場」と呼ばれるガーナのスラム街にギャラリーやリサイクル工場を建設し、スラム街をサステナブルタウンに発展させるべく尽力している経験などから語られる、長坂氏がチャレンジしてきた行動と経験。今なお挑戦を続ける美術家・長坂氏のお話に耳を傾けてみませんか?当日は、長坂氏の作品展示も行います。多くの申込をお待ちしております。

関村100周年記念事業

### 猿払村子育て講演会

■講師 美術家 長坂真護氏

■演題 「君の行動に愛はあるか? ~アートで世界を変える長坂真護の挑戦~」

1984年生まれ。2009年、都下の絵描きとなり世界を放浪。2017年に世界最大級の電子機器の墓場と呼ばれるガーナの汚染地「スラム」を舞台に、アートで世界を変えるための活動を開始。その売上から生まれた資金で、現地にアートギャラリー、リサイクル工場建設、オーガニック農業やEVの事業を推進。経営・文化・環境の3軸が好成績を挙げ、長坂氏は専業主婦の仲間「リサイクル・アーティスト」を組織し、2020年までにガーナ10,000名の雇用創出を目指す。スラム街をサステナブルタウンに変えたいため、日々精力的に活動を続けています。2022年上期の事業計画にて自身初となる美術展開催を機に、第51回ベストドレッサー賞(学術・文化部門)受賞。ガーナに「MAGO MOTOR SLID」を設立し、現在ガーナ人32名の雇用創出。(2023年4月時点)

令和5年 9月7日(木) ~書籍販売も実施~ (数量限定)

18:00~19:30 (開場 17:30) 入場 無料

猿払村交流センター (現場行合併設)

申込め&問合せ先

子育て支援センター TEL 2-3666 / FAX 2-2266 申込期日 9月4日(月)

教育委員会社会教育係 TEL 2-3011 / FAX 2-2225

観覧について

17:30より鬼志別保育所で託児を行います。申込めは子育て支援センターへ。

主催 猿払村鬼志別保育所子育て支援センター 共催 猿払村PTA連合会  
後援 猿払村教育委員会

先日、2人の娘が続けて体調を崩し、迎えに行ったり病院を受診したりということがありました。長女は旭川で少し遠く、体調が回復するまで側にいるというわけにもいかず、日帰りで最低限度の事をして帰ってきました。その後も体調の様子など連絡を取りながら回復を見守っていましたが、あまり思わしくなく、自分で最寄りの病院に連絡をしたり受診をしたりして何とか快方へ向かったのです。子どもが不調だと聞くと駆けつけたり何とかしてやりたいと思うのですが、年齢的にも色々な事を自分で越えていくことが必要になってきます。必要な援助が適切にできる保護者であれたらと思わされる出来事でした。(こいずみ)